


土地境界確認図（見本） 令和元年9月版

図面の大きさは原則A2版（A2版未満は使用不可）とする。

私所有の下記土地と隣接する世田谷区有地との境界について本境界確認図のとおり確認する。			
立会場所・土地の地番	土地所有者 住所・氏名・印	立会年月日	確認年月日
世田谷区松原五丁目34番1、34番3、35番	世田谷区松原五丁目10番1号 世田谷 太郎 	令和 年 月 日	令和 年 月 日

確認欄作成の注意事項

立会場所・土地の地番、住所、氏名、立会年月日、確認年月日は、本人が記名押印する。

印鑑は、申請書と同じ実印とし、浸透印は不可とする。

記名は、ボールペン等で記入する。ただし、官公庁、法人等はゴム印（所在地、組織名、代表者名のみ。電話番号は不要。）でも可とする。

確認年月日は、本人が記名押印した日とする。

土地境界確認図		縮尺
土地所在地番	世田谷区松原五丁目34番1 ほか	1/250

表題部作成の注意事項

確認した土地所在地番が複数ある場合は、「ほか」を忘れずに記載する。

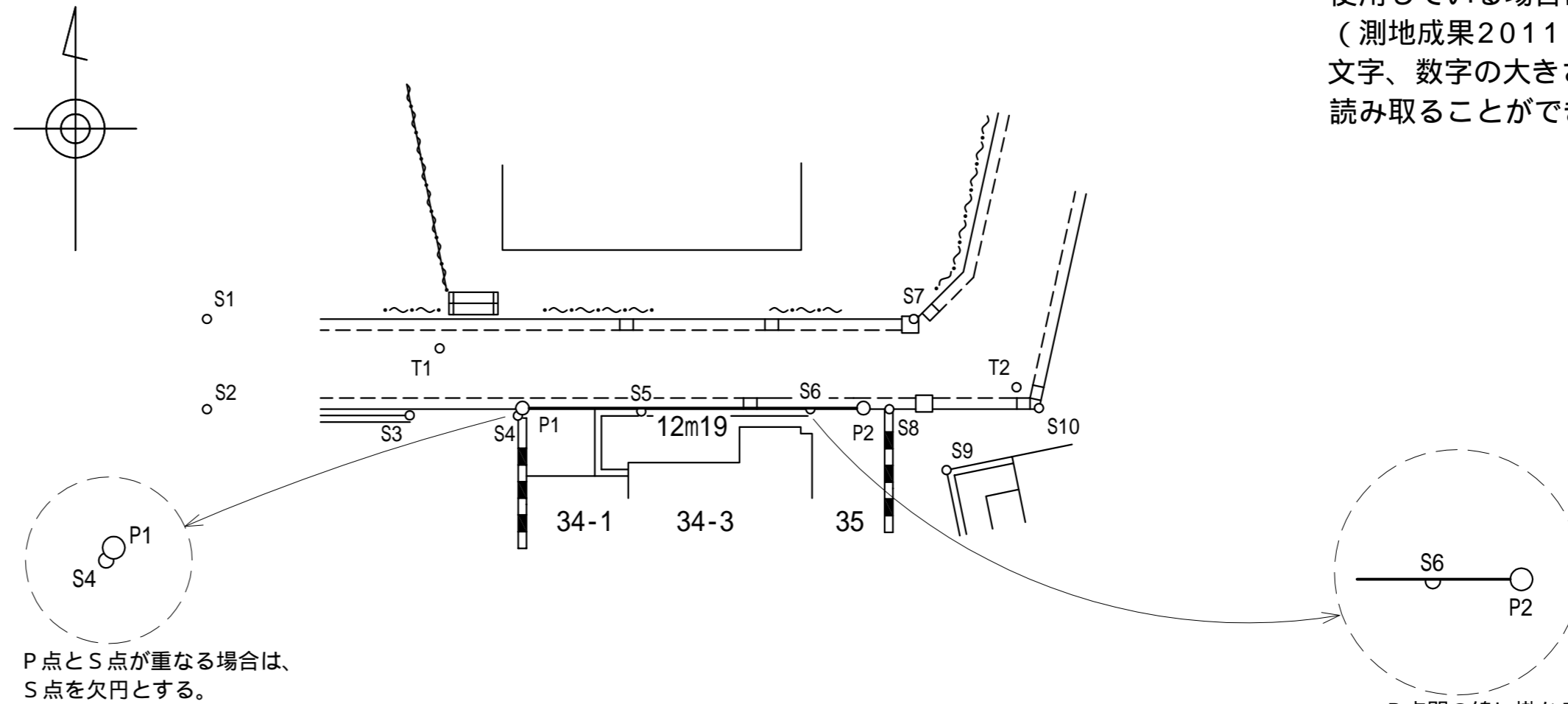
	X座標	Y座標	備考
P1			区石 田
P2			区鉄
S1			民鉄
S2			計算点
S3			堀角
T1			鉄
T2			鉄

座標欄作成の注意事項

石標・金属標の形状は、図面上と向きを合わせ現形を記入する。

測量日が2012年5月24日以降の公共基準点を使用している場合は、座標欄の下に「世界測地系（測地成果2011）」と記載する。

文字、数字の大きさは、A3版に縮小した際にも読み取ることができる大きさとする。



下図提出時の注意事項

下図は、記名押印前の土地境界確認図と同じ記載内容の図面を以って下図とする。

原図（和紙）の作成前に、原寸大で印刷し、区担当者に提出する。

確認辺長の計算値小数点以下第3位までを、確認辺長の下に赤ボールペン等で（ ）書きで記入し提出する。

計算表がある場合は別途提出する。

なお、（ ）書きの数値は原図（和紙）には記入しない。

確認図作成の注意事項

原図は強硬な和紙（インクが浸透するもの）で作成する。

図面の大きさは、A2版を原則（A2版未満は使用不可）とし、広範囲なものはA1版とする。縮尺は原則250分の1とする。

区有地の地番は記入しない。

実測図部分は黒一色で作図する。

P点、S点、T点は一重丸で統一する。


公図と現地が異なる場合は、上段に公図上の地番を、下段に合意地番を（ ）で表示する。

複数の丁目を含む場合は、それぞれの丁目を記入する。（同一の場合は記入しない。）

文字、数字の大きさは縦横2.2mm以上で鮮明に読めるように記入する。A3版に縮小した際にも読み取ることができる大きさとする。

P点間の線は太線とする。

確認辺長およびP点の文字は、原則、区有地の外側（民地側）に記入する。

作成者			
	資格登録番号		
測量年月日	令和 年 月 日		

凡	○ P n	確認点	1cm
	○ S n	引照点	1cm
	○ T n	機械点	1cm
例	○ — m	確認辺長	1.5cm

作成者欄作成の注意事項

調査士の場合は職印、法人の場合は代表者印で押印する。

測量年月日は最終立会日かつ境界標埋設日以降の日付とする。

余白 1.5cm以上

12cm以上

余白

余白

1.5cm以上

12cm以上

1.5cm以上

1.5cm以上